

辻説法



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>
<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

朝の駅前、そしてスーパーマーケットの駐車場や大きな街道筋での街頭演説を3年間続けてきました。和歌山市民の皆さんにとって、私の街頭演説は景色の一部になっているようです。最近、住宅街での街頭演説に力を入れています。街角の辻ごとに2分間程度演説をします。ハンドマイクを肩にかけて、のぼり旗を手に持ってです。そして、次の辻まで歩いて移動。また、そこで2分間の演説です。これこそ、「辻説法」の極地です。

1回に付き3時間程度やります。歩きながら演説しますので、3時間でエネルギーが無くなります。午後の昼下がりに、住宅街は人っ子一人通りません。誰も聞いていない辻々で演説をします。しかし、住宅街を回った経験から、平日は半分のお家でどなたか在宅であることがわかっています。大きな声で元気よく演説すれば、家の中まで届かずです。

電線に鳩が止まっていたら、その鳥に向かって演説します。鳥がいなければ電線の向こうにある青空に演説します。渾身の力を振り絞って演説しますと、たまに人が出てきてくれることもあります。小学校の下校時になりますと、「子供見守り隊」の皆さんが辻に立たれます。お互い、辻に立っていますから、自然にあいさつもできますし、握手もさせていただきます。

のぼり旗を持って一人で歩いていると、横を通る車が止まります。「周平さん、一人でやってるんかい。ご苦労さんやな」と声をかけてくださる方もいます。有権者の皆さんとコミュニケーションを取るには、歩くスピードはちょうど良い塩梅です。自転車にのぼり旗を立てて市内を走るのも、ちょっとイイ感じ



でしたが、歩きながらの辻説法は政治の原点だと思います。

庭先で花をいじっている奥さんとは、戸別訪問感覚でお話ができます。バス停でバスを待っている主婦のグループとは即席のミニ集会ができます。スーパーマーケットや交差点で見かけた候補者本人が「自分の住んでいる街に来てくれた」というように感じていただけることもあって、総じてアタリは良いですね。

そして、大人がいなくても路上には小学生や中学生がたくさんいます。もの珍しいのか、小学生の低学年の子供たちは私の後を付いて歩いてくれます。心強い応援団です。その子供たちには私の名前を覚えてもらい、家に帰ったら保護者の方に報告してもらいます。最近、和歌山市内の小学生の間で、「きしもとしゅうへい」はちょっとした人気者です。もっとも、彼らには票がありませんので、それでは当選できないのが、残念なところですが……。

